



広報

かつやま

7月号

No.615

Katsuyama City Newsletter

平成18年7月13日発行

梅雨に涼む

CONTENTS

児童センター

6月議会

HOT話題

出会いふれあい

本町2丁目



歴史の散歩道

(67)

細野口鉾山

この鉾山は、水無山の東斜面で細野口村の後背部にあり、慶長年間（一五九六～一六一五）に松田村の太郎が発見したと伝える（『大野郡誌』）。文化十二年（一八一五）勝山町の米屋嘉兵衛・松屋藤兵衛ら七名が、水なし・浅谷で鉾山稼ぎをするにあたり、

運上金一〇〇両につき二五両の役金を村方に支払い、代わりに村は仕入れとしての炭・薪・運送に責任を持つ契約を村と結んだ。同十四年五月になると、村人から要九郎・儀右衛門・弥次右衛門・助右衛門の四名も鉾山稼ぎに加わるようになり、諸経費と収入について内輪もめもあったが、結局郷方・町方五分五分としている。

また採掘による公害もみられ、文政十年（一八一七）「山陸地」に加え「金しる湧出」によって米収量が少ないとして米百俵の用捨米を願い出ている（下牧清三郎家文書）。

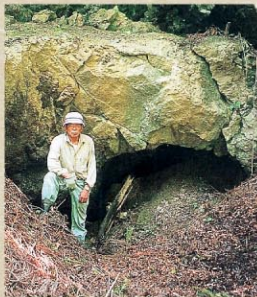
その後、天保十二年（一八四一）頃には滝波村の藤沢親道が大野町中屋次左衛門と採掘し、良質の銀を得たが経営に失敗し江戸寺社奉行所の訴訟にまで及んでいる。この頃勝山藩も鉾山経営に関心をもち「銅山奉行」を置いていた。嘉永三年（一八五〇）勝山藩では、日本近海への外国船の出没による対策として洋式大砲（青銅製）の製造

を始め、同四年「細野口村より吹子二つ、野戦・自在・ホウ中ツール鑄立候節かり入れ」（勝山藩「大砲・火薬等諸入用勘定帳」乾一與家文書）ていたことが記され、灰吹精錬が行われていたことが知られる。

元治元年（一八六四）頃には、村山の鶴生鉾山で大野面谷鉾山元締尾崎喜藤次と村の弥次右衛門・甚助・多助らが共同稼業をしていたが、同年五月、大野郡大野町多田治右衛門に四〇〇両で譲渡された。慶応（一八六五～六七）から明治にかけては、藩が替わって京都の商人より資金を借り入れて採掘に着手したが成功せず、明治七年に閉山した。

細野口には石灰山もあり、明治末には五か所から年産十萬貫を出した。石灰焼は昭和二〇年代まで行われ、戦時中は特に軍需資源として重視されていたものである。

勝山市文化財保護委員 増田公輔



下部がすっかり埋まった猿谷の鉾山（細野口）の入り口。坑道には、トロッコも出入りしていたという。写真の人物は、案内の久保重信さん。（撮影：水上憲二さん）



編集後記

▶6月は、記録的な少雨。この反動が梅雨の末期に現われないか不安になります。災害については早めの情報入手に心がけてください。▶勝山南高校の生徒さんの就業体験を取材して、高校生が、働くことの充足感や未知の社会体験を通じた驚きや刺激を有意義に感じていることがわかりました。▶学校では、夏休みに入ります。今年から児童センターは、夏休み期間、日曜日を除いて朝8時から開館します。ご利用ください。▶各地区ではキャンプや海水浴、夏祭りなど、多彩な行事が行われますが、体調管理には十分に配慮し、楽しく過ごしたいものです。



火災発生

☎88-5100（テープ吹き込み）



休日・祝日在宅当番医

診療時間▶AM9:00～PM5:00

7/16 (日)	福井社会保険病院 ☎88-0350
7/17 (月・祝)	福井社会保険病院 ☎88-0350
7/23 (日)	わかばやしこども内科クリニック ☎88-2415
7/30 (日)	たけとう病院 ☎88-6464
8/6 (日)	小林眼科 ☎87-7888

○休日に体調が悪くなったときは、ご連絡ください。

☎消防署（☎88-0400）



交通事故発生状況

※高齢者＝65歳以上

件数内訳	平成18年6月末	前年比
総件数	278件	36
人身事故 (うち高齢者)	53件 (10)	11 (0)
死者 (うち高齢者)	0人 (0)	-2 (-1)
傷者	66人	7
物損事故	225件	25



7月の納税

固定資産税▶2期
国民健康保険税▶1期（全納）
納期限▶7月31日(月)
口座振替▶7月26日(水)



人口の動き

	5月末現在	自然動態		社会動態		6月末現在	月間増減
		出生	死亡	転入	転出		
男	13,235人	10	- 8	5	-21	13,221人	-14人
女	14,508人	11	- 7	20	-16	14,516人	8人
合計	27,743人	21	-15	25	-37	27,737人	- 6人
世帯数	8,150世帯					8,153世帯	3世帯

毎月第3日曜は

家庭の日

太陽の下でからだをきたえよう